

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会
第 255 回定例会・会議録

日 時 令和 6 (2024) 年 9 月 4 日 (水) 18 : 30 ~ 20 : 40
場 所 柏崎原子力広報センター 2F 研修室
出席委員 相澤、阿部、飯田、岡田、小田、小野、品田、三宮、須田、
竹内、西村、星野、本間、三井田達毅、三井田潤、水戸部
以上 16 名
欠席委員 細山、水品、安野
以上 3 名
(敬称略、五十音順)

その他出席者 原子力規制委員会原子力規制庁 柏崎刈羽原子力規制事務所
伊藤 所長
北村 副所長
資源エネルギー庁 前田 原子力立地政策室長
資源エネルギー庁 柏崎刈羽地域担当官事務所 渡邊 所長
新潟県 防災局 原子力安全対策課 春日 副参事 高橋 主任
柏崎市 防災・原子力課 西澤 課長代理 月橋 主査
刈羽村 総務課 高橋 課長補佐 三宮 主任
東京電力ホールディングス (株) 稲垣 発電所長
杉山 副所長
古濱 原子力安全センター所長
松坂 リスクコミュニケーター
南雲 新潟本部副本部長
曾良岡 土木・建築担当
今井本社リスクコミュニケーター
原田 地域共生総括 G (PC 操作)

柏崎原子力広報センター 堀 業務執行理事
近藤 事務局長
石黒 主査 松岡 主事

◎事務局

ただ今から、柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会、第 255 回定例会を開催します。

本日の欠席委員は、細山委員、水品委員、安野委員の 3 名です。

それでは、配布資料の確認です。

事務局からは、「会議次第」、「座席表」、以上です。

次に、オブザーバーからは、原子力規制庁から 1 部、資源エネルギー庁から 1 部、新潟県から 1 部、柏崎市から 1 部、刈羽村から 1 部、東京電力ホールディングスから 2 部。以上ですが、不足がございましたらお知らせください。

それでは、三宮会長に進行をお願いします。

◎三宮 議長

はい、皆さん、こんばんは。

それでは、地域の会第 255 回定例会を始めさせていただきます。

初めに、議事の 1 として「前回定例会以降の動き、質疑応答」に入ります。いつも通り、東京電力さん、規制庁さん、エネ庁さん、新潟県さん、柏崎市さん、刈羽村さんの順番でお願いしたいと思います。

それでは、東京電力さん、お願いします。

◎杉山 副所長（東京電力ホールディングス（株）・柏崎刈羽原子力発電所）

はい。東京電力の杉山から「第 255 回地域の会定例会資料 [前回定例会以降の動き]」の資料に基づきましてご説明をさせていただきます。

まず、めくっていただきまして 2 ページ、3 ページ、4 ページ、5 ページが不適合に関する情報ということで記載させていただいておりますので、後ほどお読みいただければと思います。

それから 6 ページでございますが、8 月 8 日柏崎刈羽原子力発電所における使用済燃料の 2024 年度号機間輸送計画の変更について公表させていただいております。3 月 29 日にお知らせしたプレスでは、使用済燃料の号機間輸送につきましては未定とさせていただいておりましたが、今回、こちらに記載のとおり、7 号機の燃料 380 体を 3 号機に号機間輸送ということで、時期としましては今年度第 2 四半期から第 4 四半期の間ということで公表をさせていただいております。

次の 7 ページでございますが、号機間輸送、どういうふうにするのか記載されておりますが、下の段の号機間輸送用キャスクというのは、燃料が 38 体入る容器になっておりまして、写真のイメージがありますけれども、主な機能としましては閉じ込め、それから遮蔽、臨界防止、除熱ということで、健全性確認の部分では 9m の高さから落下試験を行ったり、800 度の耐火試験、それから水中 15m の深さでの試験を実施しております。

このキャスクを 7 号機の大物搬入建屋から入れまして、クレーン等で釣って 7 号機の使用済燃料プールに入れます。この使用済燃料プールの中で使用済の燃料をラックから

取り出しまして、38体、このキャスクに収納します。水も入ったまま蓋をしまして、7号機から持ち出して構内輸送専用の車で7号機から3号機まで運びます。3号機の大物搬入建屋から使用済燃料プールにキャスクを沈めまして、蓋を開けて燃料を3号機のプールのラックにしまうということで、1回で38体ですので10回で380体の号機間輸送を予定しているところでございます。

めくっていただきまして8ページになりますが、こちらは同じく8月8日です。6号機的设计及び工事計画認可申請の補正書第4回の提出について公表させていただいております。こちら、お読みいただければと思います。

次のページ9ページでございますが、こちら8月8日、3号機、4号機における定期安全レビューの実施について公表させていただいております。こちら後ほどお読みいただければと思います。

めくっていただきまして10ページですが、同じく8月8日に運転保守状況の続報ということで、海水熱交建屋の海水の漏えいについて5月に公表させていただいたものの続報を、プレスをさせていただいております。

続きまして11ページでございます。8月22日柏崎刈羽原子力発電所の再稼働及び廃炉に関する基本的な考え方への評価に関する取組状況についての櫻井柏崎市長へのご報告ということで、新聞等でもだいぶ報道がありましたけれども、ご要請いただいております、評価文書による7項目に関する当社のこれまでの取組実績と今後の対応の方向性について、櫻井市長にご報告しております。実際の内容につきましては次ページ以降に記載しておりますので、長いのでお時間ある時にお読みいただければと思います。

飛びまして17ページをご覧ください。これは、8月23日定例の所長会見にて公表させていただいたものでございます。コミュニケーション活動の取組についてということで、コミュニケーションブースでございますが、前回もご説明させていただきました。7月以降、柏崎刈羽エリアにおきましては、所長会見の日付なので5か所になっておりますが、9月今日現在の数字で説明させていただきますと、6カ所で延べ1088名の方にご来場頂きました。プラント5の23日までの数字になっておりますが、プラント5は1週間で239名。その後、実施させていただきましたMEGAドン・キホーテさんでは、1週間で337名の方にご来場をいただいております。

また、新潟本部と一緒にやっております県域も含めると、7月、8月の2カ月間で3400、3500名の方にご来場いただいているというところでございます。

また、構内見学バスツアーというのも含めて実施をして参りましたが、こちらに記載のとおり7月以降54回実施し、488名の方から見学をいただいております。また、一番下の部分ですが、今後の開催予定となっておりますけれども、実際にはもう今日時点で終わっておりまして、8月24日から9月1日までの4回で108名の方に来ていただき、計596人の方にご見学をいただいたということになっております。

めくっていただきまして、18ページでございます。どんな声をいただいたかという

ところで抜粋をさせていただいておりますが、コミュニケーションブースでいただいたご意見になりますと、「さまざまな対策が取られていることが分かった」ですとか、「柏崎刈羽の活性化のために早く動かしてほしい」、「VR を使って実際の現場の状態を知ることができた」、「電気は生活に欠かせないので原子力発電は必要だと思う」、「能登の地震があって、とにかく県民は地震、津波のことが心配」というようなご意見をいただきました。また、構内見学バスツアーでいただいたご意見につきましては、「正直、3.11 以降は原子力反対の考えであったが、今回視察してやれることはすべてやっているという印象が変わった」、「構内に入る際のセキュリティの高さは特に驚いた。実際に見ると見ないのでは大違い。よくわかった」、また「取組は評価できるが、どうしても先入観や災害の不安が付きまとう」、などのいろいろな声をいただいて、これからもこういった声を発電所運営に生かして参りたいと思っています。

続きまして、19 ページでございます。こちら所長会見にて公表させていただいたものですが、「核物質防護の取組み、進捗状況について」ということで 4 つございますが、まず 1 番目として、不要警報が減少しているということで説明をさせていただいております。不要警報の発生については、侵入検知器を気象環境に適したタイプに変更して以降、大幅に減少しているところでございます。

2 番になります。気付き、CR といっていますけれども、CR を共有する仕組みが定着してきたということで、仕事をより良くしていくことについて、理解・浸透を図ることを継続して実施して参りたいと思っております。

それから、改善につながる CR を所員や協力企業の社員の皆様が言い出す仕組みが定着してきたというふうに、このグラフを見ていただくと数字も上がってきているというところでございます。

それから、3 番目でございます。核物質防護モニタリング室からの指摘による改善ということで、設備面ですとか内部脅威、それから所員の自らを証明する振る舞いについて、モニタリング室からの指摘によって改善してきております。詳細は、後ほどお読みいただければと思います。

最後 4 番目、立ち入り制限区域の見直しの準備工事を開始したということでございます。以前から、立ち入り制限区域を少し小さくするというので、今の国道沿いのフェンスではなくて中に少し狭めるというようなご説明をさせていただいたと思いますが、その立ち入り制限区域を見直し、今年 5 月より準備工事を開始しております。

また、詳細設計を進める中で、新たな施設の設備増強に伴い杭打ち工事が必要となることから、工程を 2026 年度中完了ということで見直しをさせていただいております。

めくっていただきまして 20 ページでございます。8 月 29 日柏崎刈羽原子力発電所の保安規定変更認可申請についてプレスをしております。

次のページ、21 ページでございます。9 月 2 日柏崎刈羽原子力発電所 6 号機の新規制基準への適合性に関わる設計及び工事計画の認可について、6 号機の設工認の認可をいた

だいたというプレスをしています。

めくっていただきまして 22 ページになります。こちら、新潟県域でのコミュニケーションブースのご案内ということで、9月7, 8で五泉、それから9月21, 22に十日町で開催するというプレスをさせていただいております。

最後になりますが、23 ページ。いつもご報告させていただいておりますコミュニケーション活動の取組でございますが、今回は夏休みということもありまして、お子様に楽しんでいただけるようなものということで、サービスホールで開催するイベント告知のチラシの裏面を塗り絵にしまして、やっていただいた方の 160 枚の塗り絵をサービスホールに貼らせていただいて、プレゼントを配布させていただいたという、夏休み期間のご報告でございます。

私からは以上になりまして、次は本社の今井から福島第一原子力発電所に関する主な情報ということで、ご説明をさせていただきます。

◎今井 本社リスクコミュニケーター（東京電力ホールディングス（株））

はい。本社立地地域室の今井と申します。まず、今週月曜日に委員の一部の皆様におかれましては、廃炉作業中の福島第一原子力発電所を御視察されたと伺っておりまして、お礼を申し上げます。

本日の説明資料は、従来どおり A3 の横のホチキス止めで、タイトルが「廃炉・汚染水・処理水対策の概要」となっており、1枚めくっていただきまして裏面下段で2分の9ページと書いておりますが、こちらでトピックス2点ほどご説明させていただきます。

まず1点目は資料左上になりますが、従来から継続でご説明しております「ALPS 処理水の海洋放出について」でございまして、8月25日を持ちまして4回、通算で8回の放出を完了しており、海水の分析結果等にも異常はなく、計画通り安全に放出がされていることを確認しております。

また、今年度、残り3回ございますので、今後も着実に実施して参りたいと思っております。

トピックス2つ目につきましては、資料右下にございます「2号機燃料デブリ試験的取り出し作業の中断」でございます。本件、大きく報道されご心配をおかけしておりまして申し訳ございません。詳細な資料は2枚目の裏をご覧ください。資料スライド4枚用意しております。

本作業は、8月22日の朝7時過ぎから準備に着手いたしまして、準備段階で発生した案件でございます。当日、夕方の定例会見、また8月29日の廃炉の副社長が参加する会見でもご説明しておりますが、資料左下のスライド2をご覧ください。

2号機燃料デブリの試験的な少量の取り出しにつきましては、オレンジで囲っております原子炉格納容器を貫通する中央の青い丸に示す X-6 ペネと書いておりますが、ペネというのはペネトレーションの略でございまして、貫通孔の意味でございます。この貫通孔は事故前からございまして、直径が約 60 cm でございます。この径の中をテレスコ装置

という釣り竿を伸ばすような装置を入れて、内部で先端治具を下ろして燃料デブリを少量つかんで取り出すというイメージでございます。

釣り竿のように押し出すため、装置の一部には資料の左上に赤い丸で囲っております押し込みパイプというものがございまして、こちら1本が約1.5mで重さが約95kgと聞いておりますが、こちらが5本つながる構造となっております。

続いて、資料右上の3スライドをご覧ください。今回は8月22日の試験的取り出しの準備段階で、この押し込みパイプの順番が間違っていることに気がしまして、ただ、押し込みパイプは中にケーブルが通っている関係で、簡単にその場で順番を直せないということで作業を中断したものでございます。その順番につきましては、資料の下のほうに赤い下線で示しておりますが、5つある押し込みパイプの①～⑤という順番であるべきところ、①番のパイプが4番目になっていたということに気がしまして、作業を中断したという経緯でございました。こうなった原因、対策につきましては、本日午後に、経産大臣に報告させていただきまして、公表は明日11時から臨時の記者会見を致しまして、マスコミも含めてご説明させていただくものでございますので、本日の段階ではお示しできないところでございますが、来月の地域の会等で、原因と対策については改めてご説明させていただきたいと考えております。いわゆる廃炉の大きな節目となる作業の着手前に、このようなミスが発生致しまして大変申し訳ございませんでした。

東京電力からの説明は以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。続きまして、規制庁さんお願いします。

◎伊藤 柏崎刈羽原子力規制事務所長（原子力規制庁）

はい。原子力規制庁柏崎刈羽規制事務所の伊藤です。

資料をご覧ください。まず、8月21日に原子力規制委員会と臨時会で、第1四半期のセーフティの検査報告とセキュリティの検査報告をしています。検査報告書を添付していますので、簡単に説明させていただきます。

めくっていただきますと、セーフティの表紙があります。ページが載っていますけれども、2ページをご覧ください。まず、セーフティのほうですが、結果から申し上げますと、3ポツ1、3ポツ2にあります。今回、指摘事項はございませんでした。また、検査を継続するような案件もございませんでした。ただ、指摘事項はありませんでしたが、トラブルが全くなかったということではございません。我々の検査の中で、東電がトラブル、些細なことが起きたとしてもしっかり立ち止まって、その些細なトラブルのリスクを排除してから次に進むという活動をしっかりやられていたところを確認しています。今回は燃料装荷が終わり、その後の安全確認を東電がしておりますので、それを確認するために、他の事務所のサンプル数よりも約2倍から3倍ほど多めに検査を実施しています。夜間や土日も検査しています。その検査の中身が、3ページ以降に記載されています。後ほどご確認いただければと思います。

8 ページの次のページ、通しのページでなくて申し訳ございません。こちらがセキュリティの報告書です。めくっていただきまして、1 ページ目です。こちらも3 ポツ 1, 3 ポツ 2 にありますが、検査指摘事項、検査の継続案件はございませんでした。ただ、ご存じのとおり追加検査を昨年までやっています。その追加検査の中で、我々、今後のセキュリティの検査において、重点項目を設けて特別に見ていくということを掲げております。その重点項目の結果が7 ページ目でございます。最後の紙です。

他のサイトですと4 ポツで終わっているのですが、柏崎刈羽発電所の場合はこの重点項目があるので5 ポツがあります。重点項目は3 つ設定しております、まず1 つ5 ポツ 1 です。荒天時の監視ということで、例えば大雪ですとか、台風ですとか、そういった時にセキュリティのセンサーが不要警報と申しますか、誤作動してしまうのではないかと申すところ、そういったものをどういった活動で整理していくかと申すところを監視しています。

結果から申し上げますと、第1 四半期は4 月以降ですので雪もなく、幸いなことに台風等も新潟を直撃しているものはなく、荒天時の事業者の活動は確認できておりませんので、引き続き監視していきたいと思っております。

また、3 つ目の丸に迷惑警報と書いていますけれども、先ほど東電さんの話で不要警報とありましたが、センサーというのは感度を落とすと見られるものが見られなくなります。かといって、センサーの感度を上げ過ぎるとこういった不要警報、迷惑警報が増えてしまいます。そのへんの整理が結構難しいのですが、こういったところをしっかりと整理しながら発生件数が減っていることを確認しています。

続きまして、5 ポツ 2 に PPCAP と書いてありますけれども、PP はフィジカルプロテクション、いわゆるセキュリティの話です。CAP というのはトラブルの種があれば、それがトラブルに発展する前に摘んでしまおうという活動ですけれども、この CAP 活動をしっかりとやられていることを検査の中で確認しています。

ただ、3 つ目の丸で一部指摘事項ではありませんけれども、少し脆弱なところがあるのではないかと申す検査官の指摘に対して、ソフト的な代替対策はやられているのですが、実際直すのに少し時間がかかったなということ、ここに書かせていただいております。

続きまして、5 ポツ 3 のところです。当柏崎刈羽発電所にモニタリング室というものを設置しています。こちらは社長の直属の組織でありまして、独立し俯瞰して柏崎刈羽発電所のセキュリティ活動を見ているところです。そのモニタリング室がしっかりと機能しているかどうかは検査で確認しており、ここに良好事例、改善が必要な事項というものが書いてありますが、これはモニタリング室が確認したものでございます。こういったところで、しっかりと機能していることを確認しています。

検査の報告は以上になります。共に指摘事項はございませんでした。

最初のページに戻っていただきまして、審査の実績ですが、7 号機、6 号機共、今回審査会合はございませんでした。

その下にあります、通達・文書ですけれども、8月8日、6号機の工事計画認可の申請書の一部補正、先ほど東電さんから話がありましたが、こちらを発信しています。こちらは、記載の適正化ですとか誤記修正といったところです。

また、8月9日は第1四半期の安全実績指標、PIと呼んでいます、例えば、スクラム回数何回ありましたか、計画外の被ばくはどのくらいありましたかという、定量的に発電所のパフォーマンスを見られるもので、これを公表しています。8月14日、こちらは異動に伴う核物質防護管理者の解任の届出を受理しているというところです。8月21日ですが、先ほど話しました報告書を公表しています。8月29日は、保安規定の変更認可を受理しております。シビアアクシデントですとか火災、そういったことの見直しです。最後9月2日ですけれども、6号機の設工認の許可を致しました。

その下にいきまして、面談です。8月7日は特重関係の審査会合がありまして、その質問の中身の確認というところ。8月15日は、核物質防護規定の変更申請がありました。申請に係る面談というところです。26日、こちらはPRAとって発電所の原子炉の炉心損傷率を定量化するモデルを使ってリスクを評価するわけですが、そのモデルの適正化について面談で確認しています。8月28日は、地震に関する面談をしたところです。

その他、住民説明会7回目。出雲崎で終了しています。8月23日は県の技術委員会で規制庁に質問いろいろとされていましたが、3回目の回答をしたところでございます。

8月26日ですが、屋内退避の運用の検討チームの第4回をやっています。こちらは、屋内退避の解除という重大な判断材料となる原子炉施設の状態の整理をした会でございます。

放射線モニタリング情報は、以下のURLでご確認いただければと思います。規制庁からは以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きましてエネ庁さん、お願いします。

◎渡邊 柏崎刈羽地域担当官事務所長（資源エネルギー庁）

資源エネルギー庁柏崎刈羽事務所の渡邊でございます。よろしくお願いたします。

それでは、当庁の資料「前回定例会以降の資源エネルギー庁の動き」の資料に従いましてご説明させていただきます。

まず1、エネルギー政策全般ということでございまして。これは報道もされておりますが、8月27日、政府のGX実行会議において、岸田総理から柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に関する発言がございました。下のところに抜粋で記載をさせていただいております。中ほどの下のところに「安全性の確保を大前提としつつ、地元理解を得た上で再稼働をしていく、との方針に従って新規制基準に適合した柏崎刈羽原発について対応していきます」という発言がございまして、その下に続きで柏崎刈羽原発に関する発言がございます。

それから、その次にいきまして、齋藤経産大臣の記者会見の様子でございますが、この8月27日のGX実行会議を受けて、8月30日の記者会見では原子力関係閣僚会議に

つきまして大臣の発言がございました。これにつきましても、下の枠内の中で記載をさせていただきます。

次の2ページ目に参りまして、8月30日、令和7年度概算要求書を財務省に提出したところでございます。資料は、他の予算も入っていてボリュームがございましたので割愛させていただきましたけれども、記載のURLのところに「概算要求の概要」が載っております。

それから、同日8月30日には第61回の総合エネルギー調査会基本政策分科会、それから日はさかのぼりますけれども、8月7日には東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の取り扱いに関する在京外交団等向けの、テレビ会議での説明会を行っております。

それから、8月21日には齋藤経産大臣のインドネシア共和国出張がございました。

3ページ目にまいりまして、これは当事務所が実際に関わっている事業でございますが、8月15日の刈羽村の夏祭りに「わくわくエネルギー体験ひろば!!」でブースを出展させていただきました。概要は下の写真がございまして、発電体験、それからパネル展示などエネルギーに関する広報活動を行い、500名を超える来場者、主として刈羽村の方々に来ていただいたところでございます。

次に、後ほど新潟県等からご説明があると思っておりますけれども、8月23日、原子力災害を想定した航空機・船舶避難訓練の現地調査、私も実際に現地に行つてどのように訓練が行われているかを調査してきたところでございます。これにつきましては、まとめて本省に報告しております。

次の4ページ目にまいりまして、「エネこれスペシャルコンテンツ」のご紹介でございます。ちょうど夏休みの期間ということで掲載頻度が落ちているのですが、この1カ月の間に1つだけ「日本でも事業化へ動き出したCCS技術（後編）」を載せております。

2の電気事業関連の審議会系でございます。やはり8月ということで開催回数は少ないものの、「電力・ガス基本政策小委員会」であるとか、「同時市場の在り方等に関する検討会」等を開催したところでございます。

5ページ目にまいりまして、同様に新エネ・省エネ関連でございますが、こちらも8月7日の「第66回再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会」を始め、8月中に8回の各種委員会、小委員会等が開催されていまして、それのご紹介でございます。

その他委員会等は特にございませんでしたので、以上でございます。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。続きまして新潟県さん、お願いします。

◎高橋 主任（新潟県・防災局原子力安全対策課）

はい、新潟県原子力安全対策課の高橋と申します。右上に新潟県と書かれた資料をご覧ください。前回定例会以降の動きになります。

1つ目が安全協定に基づく状況確認ということで、8月9日、柏崎市さん、刈羽村さんとともに発電所の月例の状況確認を実施しています。主な確認内容については記載のとおりです。

2つ目が、新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会を実施しました。8月23日、令和6年度第3回技術委員会を開催し、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策について原子力規制庁から説明を受け、質疑を行っております。また、これまでの議論を取りまとめた報告書の素案を提示しました。今後は、報告書の取りまとめについて議論することにしております。委員会資料については記載のURLをご確認いただければと思います。

3つ目が、原子力災害を想定した航空避難訓練・船舶避難訓練を実施しております。8月24日、原子力災害時における対応力の向上を図るため、原子力防災訓練の個別訓練として航空機避難訓練・船舶避難訓練を実施しています。参加機関は、新潟県、柏崎市、陸上自衛隊、海上自衛隊、第九管区海上保安本部など、合計160名。また、参加住民は合計40名となっております。

裏面をご覧ください。訓練の内容については表に記載のとおりです。

4番目が、新潟県原子力発電所周辺環境監視評価会議になります。こちらは、昨日開催したのになりまして、第81回評価会議を開催し、令和5年度の環境放射線監視調査結果及び温排水等漁業調査結果について評価していただきました。環境放射線監視調査結果については、柏崎刈羽原子力発電所からの周辺環境への影響は無視できるとなっております。

また、温排水等漁業調査結果については、過去と比較して特異な傾向は認められなかったとなっております。

会議の資料については記載のURLをご確認いただければと思います。

その他として、8月30日に報道発表した原子力災害を想定した学校等における児童の保護者への引き渡し訓練の実施に関する資料を添付しております。

新潟県からは、以上になります。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。続きまして柏崎市さん、お願いします。

◎月橋 主査（柏崎市防災・原子力課）

柏崎市防災原子力課の月橋です。

柏崎市の資料「前回定例会以降の動き」をご覧ください。

1、「安全協定に基づく状況確認」につきまして、8月9日に新潟県、刈羽村と共に発電所の月例の状況確認を実施しております。今回は、柏崎市のオープンカンパニーの取組といたしまして、学生1名と一緒に状況確認に参加しました。内容につきましては、新潟県から報告があった通りですので省略させていただきます。

続いて2番目です。新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会につきまして、8月23日に令和6年度第3回目となる技術委員会に出席しました。会議の内容につきま

しては、新潟県からの報告のとおりであるため割愛致します。

3、原子力災害を想定した航空機・船舶避難訓練と船舶避難訓練につきまして、8月24日に令和6年度新潟県原子力防災訓練の個別訓練として実施しました。主な訓練内容は新潟県から説明があったとおりですが、航空機・船舶避難訓練と合わせて市独自の訓練も実施しています。

市の独自訓練として、マイナンバーカード受付訓練では模擬マイナンバーカードを使用し、二次元バーコードで避難者の個人情報を読み込み、円滑な避難者の受付を行うとともに、広域避難を想定し避難状況を災害対策本部等の複数個所においてリアルタイムで共有、情報の一元化を図りました。また、災害時に地上回線が利用できない状況を想定し、アメリカの航空宇宙企業であるスペースXの通信衛星サービスStarlink（スターリンク）を活用して、受付会場と災害対策本部をオンライン会議システムで接続し、現地の状況把握を想定した中継を実施しました。

自衛隊車両による住民移送訓練は、航空機・船舶避難訓練の参加者の集合場所である荒浜コミュニティセンター及び松波コミュニティセンターから、航空機の搭乗場所である鯖石川改修記念公園まで、陸上自衛隊の高機動車3台で実施しました。訓練に関しましては以上です。

続いて、4番目の新潟県原子力発電所周辺環境監視評価会議について、9月3日に開催された第81回の評価会議にテレビ会議にて参加しました。会議の内容につきましては、新潟県からの報告のとおりですので割愛致します。

柏崎市からは以上となります。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。それでは最後に、刈羽村さんお願いします。

◎三宮 主任（刈羽村・総務課）

刈羽村総務課の三宮です。刈羽村総務課より、前回定例会以降の動きという資料を1枚配布させていただいております。前回定例会以降の動きということで3点、その他1点記載させていただきました。

前回定例会以降の動きについては、1点目、8月9日に新潟県さん、柏崎市さんと共に安全協定に基づく状況確認を実施いたしました。

2点目、8月23日に新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会を傍聴いたしました。

3点目、9月3日に新潟県原子力発電所周辺環境監視評価会議に出席致しました。

その他については、9月6日に原子力災害を想定した学校等における児童の保護者への引き渡し訓練を実施いたします。こちらは新潟県原子力防災訓練の個別訓練となります。詳細については新潟県さん、柏崎市さんとの重複になりますので資料をご確認いただきたいと思います。以上となります。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。

それでは、これから質疑応答に入りたいと思います。発言のある方は挙手の上、指名された後にご自分のお名前とどちらのオブザーバーへの質問なのか意見なのか発言した後にお話いただければと思います。はい、それでは、どうぞ、お願いします。

◎渡邊 柏崎刈羽地域担当官事務所長（資源エネルギー庁）

エネ庁の渡邊でございます。資料の訂正でございます。エネ庁の資料で、原子力災害を想定した航空機・船舶避難訓練、3 ページ目でございますけれども、実施日を8月23日と書いておりますが、先ほど新潟県さん、柏崎市さん等からご説明がございました24日が正しい日付でございます。後ほど修正して、WEBには修正版ということで載せさせていただきますのでよろしくお願いたします。

◎三宮 議長

はい、承知しました。それでは、委員の方、竹内委員、どうぞ。

◎竹内 委員

竹内です。東京電力に質問です。資料の19ページの「立ち入り制限区域の見直し」ということですが、これは、現在のどのくらい、何分の幾つになるとか、どのくらい立ち入り制限区域が狭まるのかというのを1点。視察の話になるのですが、福島第二原発を視察した時に、柏崎刈羽原発の福島第二は3分の1の敷地、柏崎刈羽原発は3倍だという話があったのですが、これは立ち入り制限区域も福島第二の3倍なのか、もっと広いのか、今日、お答えいただかなくても結構ですが、立ち入り制限区域で比べるとどのくらいなのか、この立ち入り制限区域の見直しをするとどのくらい減って、それも福島第二と比べてどうなるのかを、後日でもいいので教えてください。

◎三宮 議長

はい。東京電力さん、お願いします。

◎古濱 原子力安全センター所長（東京電力ホールディングス（株）・柏崎刈羽原子力発電所）

東京電力の古濱です。ご質問ありがとうございます。

まず、簡単に答えられるほうからですが、立ち入り制限区域は敷地と同じです。敷地の面積が3倍違うということは立ち入り制限区域の大きさ、面積もだいたい3倍違うということになります。

今、メインのご質問にありましたセットバックでどれくらいになるのかというのは、数値は公表していないのですが、検討いたしまして可能な範囲で次回なりに回答させていただきます。ありがとうございます。

◎三宮 議長

はい、竹内委員、どうぞ。

◎竹内 委員

柏崎刈羽原発が広すぎるというのは私の勝手な印象で、これでどのくらい狭くなるの

かが自分の中でイメージできると本当にいいなと思うので、ぜひ、ざっくりとした感じでもいいので教えていただければありがたいです。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。たぶん、核防護に関わってくるから絵は出せないですよ。すいません、余計なことでした。他にある方、いらっしゃいますか。はい、飯田さん、どうぞ。

◎飯田 委員

委員の飯田です。東京電力さんをお願いします。この資料の 3 つの汚染水対策の取組(2)の説明はなかったのですが、私の不勉強もあるのですが、この滞留水、建屋滞留水というのは何なのかと、どのようにして発生するのかということですね。それから、黒ポチの 3 つ目に 2020 年度末の半分程度に低減を達成しましたとありますが、ここには具体的な数値がありませんので、わかりましたらその数値をお願いしたい。なぜ、発生するのかも含めて説明をお願いします。

◎三宮 議長

はい、東京電力さん、お願いします。

◎今井 本リスクコミュニケーター（東京電力ホールディングス（株））

はい。東京電力の今井でございます。資料 1 枚目の右下に、建屋を断面に切ったイラストの下部に滞留水という記載がございます。福島第一につきましては、1 号機から 3 号機まで当時運転しておりまして、結果的に事故に至って燃料デブリが溶け落ちたというところでございますので、現在におきましても冷却水を循環しながら燃料デブリを冷却しております。そのために、建屋の下部に滞留水が存在します。

一方で、ただ循環しているだけであれば滞留水は増えることはないのですが、どうしても建屋というものは隙間があります。また、福島第一原子力発電所におきましては、1 号機と 3 号機が事故の際に爆発しております。特に 1 号機は、まだ建屋の上部の修理が終わっておりませんので、雨水が混入することでこの滞留水、表現としては汚染水という言い方もしておりますが、この滞留水・汚染水に雨水が混入すること、また地下水が混入することで日々この滞留水・汚染水が増えるというのが、事故直後の福島第一における大きな課題でございました。そういった汚染水が増えないような抑制対策ということで、このイラストのます一番左にございます地下水バイパスということで、地下水がこのイラストでいいますと右から左に海に向かって流れる感じになるのですが、地下水が建屋に近づく前に手前で汲み上げて海に放出しています。

また、建屋のすぐ脇にサブドレンと書いておりますが、いわゆる井戸でございますが、通常の原子力発電所、柏崎にもございますが、この井戸の地下水を汲み上げることで、さらに詳細に申し上げますと、建物の中の滞留水、汚染水でございますので、この建屋の中の滞留水の水位より外側のサブドレンの地下水を高くすることで、建屋の中の滞留水・汚染水が外に出ないような対策、水位のコントロールなども行っております。

また、建屋のすぐ脇に陸側遮水壁と書いてあるのですが、簡単に言いますと地下の氷の壁でございまして、1～4号機を1mおきに地下30mの杭というか配管を打ち込みまして、その中をマイナス30度の不凍液を循環させることで地下の氷の壁を作り、地下水が建物に近づかないような対策も行っております。

また、敷地全面をフェーシングといいまして、モルタル、アスファルト等で覆い雨水が地下に浸みこまないような対策をすることで、汚染水・滞留水の発生につきましては、2015年頃には1日あたり500tで1000tのタンクが2日で一杯になってしまう量だったものが、昨年度においては1日あたり80t程度まで低減できたところでございますが、80tでも10日程度で1000tのタンクが一杯になってしまうという点では、更なる対策を今後も講じていく予定でございます。

もう1つのご質問で、3ポツ目の2022年度から24年度に向けて原子炉建屋の滞留水を2020年度末の半分程度にするという点につきまして、正確な量は今持ち合わせておりませんので確認してご回答しますが、簡単に言いますと、この滞留水の水位を下げるために、ある程度汲み上げて水位を下げたというものが、この結果でございまして。水位をなぜ下げるかといいますと、地下水を低く保つことで滞留水を少なくするという点では汚染水の漏えいのリスクも減ります。そういった点で、こちらは達成しているところでございますが、具体的な数値は後ほど改めてご回答させていただきます。以上でございます。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。他にある方いらっしゃいますか。はい、星野委員、どうぞ。

◎星野 委員

はい、星野です。今回の2号機のデブリの試験的取り出しの作業の中断、詳しくは明日公表されるそうです。先回の議事録を読んでいたのですが、送られてきた議事録の7ページに東電さんの説明がありまして、今回のことに関連した説明で、この中に「テレスコ式試験的取り出し装置ではクリップという先端治具でごく少量の、数グラム程度の燃料デブリをつまんで取り出す予定です。このテレスコ式試験的取り出し装置は7月25日に原子炉格納容器の貫通部であるX-6ペネに設置している接続界の接合が完了しており、7月31日に使用前検査を受検し良の判定をいただいております。」とありますが、この「良」の判定をしたのはどなたですか。規制庁ですかね。まずは東電さんに質問です。

◎三宮 議長

はい、東京電力さんお願いします。

◎今井 本リスクコミュニケーター（東京電力ホールディングス（株））

はい、東京電力でございます。先月の資料は皆様が福島第一をご視察されるということで、従来の資料に加えて個別の資料でご説明したと聞いておりまして、お話がありましたとおり、この2号機の取り出しに向けたテレスコ装置につきましては、7月31日に2号機の原子力規制委員会における使用前検査で「良」と確認をいただいております。その後、

正式な使用前検査の合格証は8月16日に当社は受領いたしまして、それを受けて8月22日から作業に着手したところでございますが、説明のとおり手順にミスがございまして中断となったという経緯でございます。

また、テレスコ装置につきましては、現地で規制庁による使用前検査、確認を行うに先立ちまして、7月上旬に三菱重工の神戸の工場でも使用前検査は行っておりまして、そちらでも「良」という判定をいただいております。

◎三宮 議長

はい、星野委員、どうぞ。

◎星野 委員

現地というのは、まさに今回作業する現場というふうに解釈していいのでしょうか。

◎今井 本社リスクコミュニケーター（東京電力ホールディングス（株））

はい。実際2号機のこの作業をするエリアにテレスコ装置を搬入した状態で検査を受けたと聞いております。

◎星野 委員

規制庁さんに、それに関連して、それはどういうことだったのでしょうか。良としたのは。

◎伊藤 柏崎刈羽原子力規制事務所長（原子力規制庁）

はい。規制庁の伊藤です。まず、結果から申し上げますと、すいません。私、存じあげておりません。本庁の専門検査部門に、1Fの検査をするグループがあります。そちらで確認し、そういった結果を出したのだと思いますが、次回、お話をさせていただければと思います。

◎三宮 議長

はい、わかりました。はい、星野委員、どうぞ。

◎星野 委員

今日、配られました東電さんのこれに関する資料の2ページで、テレスコですかね、この機材よくわかりませんが、全容が見えるのですけれども、丸で括られてスケールとすればすごく大きなものですね。この押し込みパイプ自体が1.5mとありますから、なぜその順番が狂っていてもその現場で「ああ間違った、じゃあこっちへ入れ直そう。」、釣竿をつなげるみたいなことができないのかということ、その中に諸々の操作に重要であろうケーブル等が入っているということですよ。それを切断できないから簡単にはできないのだとしますと、そのX-6ペネみたいなどの検査の時にも、この中にケーブル等も全部入っていたと思うのですが、その検査というのはどんなふうに行われているのでしょうか。それを良とするみたいなことがすぐ出てくるっていうのは、ちょっと素人では考えられないですけど。

◎三宮 議長

はい、東京電力さん、お願いします。

◎今井 本社リスクコミュニケーター（東京電力ホールディングス（株））

はい。東京電力、今井でございます。現地での装置の試験につきましては、貫通孔を実際には通すまでは行っておりません。具体的に工場と違って現地でどのように試験を行ったかまでは、私も詳細を把握できておりませんので、また、明日公表される資料にもその点が含まれているかどうかも含めて、次回以降ご回答させていただければと思います。

◎星野 委員

はい、了解です。

◎三宮 議長

その件に関しては、明日の公表をもって来月の定例会でまたご説明いただくということをお願いしたいと思います。

はい、他にある方いらっしゃいますか。はい、星野委員、どうぞ。

◎星野 委員

今一点、東京電力さんに質問です。今日、配られた資料で不適合事案の説明をされている5ページ。公表区分Ⅲで下のほうにナンバー1, 2, 3, 4とあるのですが、この2の事案と4の事案というのは、要するにICカードを携帯していないことを警備員が確認したという、全く共通の事案が起きているのですが、それぞれ、厳正管理について再教育を実施した。発見日を見ますと2のほうは5月31日、4のほうは7月5日ですね、これ同じ協力企業の作業員が同じようにやったということではないことは分かっていますけれども、東京電力さんが協力企業の大勢いらっしゃる従業員の皆さんに、こういうことを徹底することがどれほどいっているのか非常に疑問です。こんな同じ事案がこんな短時間のうちに連続して起きるといふこと、どうなのでしょう。

◎三宮 議長

はい、東京電力さん、お願いします。

◎古濱 原子力安全センター所長（東京電力ホールディングス（株）・柏崎刈羽原子力発電所）

はい、東京電力の古濱でございます。おっしゃるとおりで、当然その忘れてたりとか置いたりとかする細かいことは違うわけですが、実際このような不適合が短期間で起きてしまったということは事実ですので、確かに我々としても、なるべくこういうのが起きないように全体的に網をかけるような対策、例えば全体に周知をしたり、企業さん、元受さんを通じて徹底をお願いしたりということとは別に、個別に、当該企業であるとか、あるいは、そういうことが割と起きやすいところに対して個別に教育、周知等をする場合もあるのですが、それをやってもゼロにならないというのは事実で、これについては引き続き、我々としてもその活動を継続するしかないと考えています。

◎三宮 議長

はい、星野委員、どうぞ。

◎星野 委員

分かりましたけど、私たち小さな組織でこういう事案が発生した場合に、必ずできる限り再発しないような追い掛けをやって、何らかの対応をマニュアルにまとめていくのですが、東電さんほどの一流企業が、大勢いるからなかなか徹底するのは難しいといいつつも、これは初歩的なことで、いくらそのセキュリティ云々と皆さん本当に口を酸っぱくして説明していただきますけれども、こういう一点一点のことが欠落することでやったことが全部水の泡に、今回のデブリの取り出し失敗も全くそう、初歩的なミスで水の泡に帰すというふうなことで、本当に東京電力さん、失礼ですけどその企業全体の質に対して大きな疑問を感じます。これ意見です。しっかりやってください。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。他にある方いらっしゃいますか。

はい、無いようでしたら、時間になりましたので、ここで第一部を閉めさせていただきますと思います。ここから換気のため休憩に入ります。会議の再開は 19 時 40 分に行いたいと思いますのでよろしくお願いいたします。それでは事務局、お願いします。

－ 休憩 －

◎三宮 議長

はい、それでは皆さんお揃いになったようなので、会議を再開させていただきたいと思っています。

議事の 2 は、今週 1 日、2 日に実施させていただきました福島への視察研修に関するフリートークです。まずもって参加された方々におかれましては、本当にお忙しい中ご参加いただきまして誠にありがとうございました。そして、オブザーバーの方々も、休みにも関わらず参加いただきましたこと感謝申し上げます。

台風の影響ということで中止云々という話もあったのですが、新潟県、そして福島県に関しましては中止にするだけの理由もございませんでしたので、決行させていただいたところでございます。

それでは初めに、参加された委員の皆様、そしてオブザーバーの皆様から感想を述べていただき、その後に質問や意見などを含めたフリートークに入りたいと思います。発言順は、いつもで申し訳ないですが岡田委員から、あいうえお順に進めていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。最後に三井田副会長ということで、最初に岡田委員、お願いします。

◎岡田 委員

はい、委員の岡田でございます。まず、事務局さん、そして新潟県さんを始めオブザーバーの皆様、また、東京電力ホールディングス様におかれましては、視察先で丁寧な説明をくださりまして感謝申し上げます。

まず、福島第二原子力発電所についてですが、私自身初めて訪問させていただきました、

先ほども出ましたけれども、柏崎刈羽と比べてコンパクトな敷地に設置されていることに驚いたところです。ペデステル内で制御棒駆動機構の見学をさせていただきまして、原子炉のスケールを体感できたところです。

また、福島1Fでの燃料デブリの試験取り出しの作業内容を、原子炉内になぞらえて説明をいただいたことで、福島第一の取組の理解が深まりました。

見学後の質疑応答では、地元の新規学卒者のマインドについて質問し、回答をいただきました。廃炉作業というものが、地元でどのように捉えられているかの一端を理解できました。日曜日ということで、廃炉準備期間における作業員の様子がどのようなものかを、実感できなかったのは残念でありますので、もし、今後、機会があれば廃炉の作業が進むにつれ、実際の現場がどのような雰囲気になっていくのかを見てみたいと思いました。

続きまして、1Fのほうですが、私自身は平成29年、2017年以来の見学の機会をいただきました。全体の雰囲気としては、前回同様に落ち着いた様子を見て取れました。普段の定例会の説明を、そこで実感したという感じで、定例会ごとに詳しい説明をいただいていることを有難く思っています。

1号機から4号機まで間近で見学をさせていただきまして、廃炉に向けた作業が困難ながらも、本当に日本国内外の技術と現場力を結集したプロジェクトであると感じました。これがうまく安全に進められることを願っております、感心を高く持ち続けたいと思います。

処理水についても、実物、サンプルを見ることができました。また、ALPSによって浄化処理された放射性物質が非常に多くあったことを、改めて認識できました。トリチウムの性質についても、現場で詳しく説明していただきまして、深まったこの知識を周囲の方にも伝えて、安心を高めるように貢献していきたいと思います。

私も2000年から2004年まで、大学の時は東京に住んでおりまして、東京電力さんの電気の消費者でありました。当時は、福島のこと、柏崎のこと、全く考えずに電気を使っていたものです。福島の依然として困難な部分と、私が当時得た快適な暮らしが比べられるものでもないとは思いますが、便益を得ていた者の一人として、今後も関心を持ち続けたいというふうに感じました。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。続きまして、小田委員、お願いします。

◎小田 委員

委員の小田でございます。まずもってオブザーバーの方々におかれましては、陰に日向に、視察のお手伝い等とご予算付け等いただきましてありがとうございました。

まずF2に関しましては、粛々と廃炉の作業が進んでいるのかなという印象を受けました。また、取り出した燃料が乾式キャスクでF2に保管され、福島第二で出た燃料についても保管されるとお聞きしておりました。

外側から見る限りでは、特に大きな被害があったという感じでは今は見受けられませ

んでしたけれども、先ほども申しましたけれども、こちらのほうは問題なく進んでいるのかなというふうに感じました。

福島第一に関しましては、一番印象に残りましたのは1号機から4号機を割りと近くから拝見させていただくことができまして、特に1号機につきましては、まだ、がれきが積まれている様子を本当に見ることができて、私、福島の見察3回目ですけれども、確実に進んでいるという印象を非常に受けました。その中で、作業員の方々は13年経って、その時に東京電力さんの社員でない方が、学生さんであった方々が東京電力社員なり、協力企業の一員として働いて従事されているのだろうというふうに思います。そこに関しては、その若い方々だけでなく作業に関わる方々には頭が下がる思いです。

その中で、建屋を遠めに見ながら、これは確実に何年かかるか分からないけれども、最後のデブリが取り出せる日が来る。核燃料を全て処分できる日が来るだろうというふうに、私はあの風景を見て確信しましたけれども、その時に私がふと思ったのは、その時に最終処分場は決まっているのだろうか。この放射性物質を処分する先、埋葬する先は、果たして決まるのだろうかということが、ふと疑問として遠巻きに建屋を見ながら思いました。そこに関しては本当に、NUMOさん中心になるかと思えますけれども、資源エネルギー庁の方々に難儀をしていただくことになると思えますけれども、早急に、できるだけ早くその道筋をつけていただきたい。そういうふうな思いをした、この視察。思った、この視察でありました。以上でございます。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして、小野委員、お願いします。

◎小野 委員

小野です。今回、最初の日には第二原発を見させていただきましたが、廃炉がかなり進んでいるなということで感心しました。1つは、廃炉の廃棄物です。キャスクに保管されているのですが、それが将来どうなるのかに関心がある人から質問がされましたが、それはまだ考えていないと、これから考えるというふうな話があったのでちょっとびっくりしましたが、早目の解決を望みたいというふうに思っています。

それから、第一原発に2日目に行きましたが、1号機から4号機まで揃って並べられていたわけですが、私がちょっとびっくりしたのは、処理水がかなりALPSで処理されていて、残ったものが一体どうなるのか質問させてもらいましたが、それは今後検討するというふうな話でしたので、少しびっくりしたというか、早目に検討されたほうがいいなというふうに思った次第です。

第一原発のほうですが、まだ、完了されてないというか、現地に人が住めないところがまだ残っていますが、どんどん縮小されていて、それはそれでよかったなと思っています。

それにしても13年という時間がかかっているわけですが、早めに完全回復させることを望んでいます。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして、品田委員、お願いします。

◎品田 委員

はい、荒浜 21 フォーラムの品田です。この度は、2 日間オブザーバーの方から丁寧なご説明をいただきましてありがとうございました。それから、私も少し質問させていただきましたけれども、丁寧なご回答をいただきまして、大変ありがとうございました。

私は、福島第一と第二の原子力発電所は初めて視察をさせていただきました。1 日目の福島第二発電所の 4 号機の原子炉建屋では、柏崎刈羽でも廃炉の時期がいずれは来るということをイメージしながら、重ね合わせて見学をさせていただきました。

発電出力が 110 万 k w で沸騰水型の軽水炉、釣鐘形状ということで、柏崎刈羽 1～5 号機とほぼ同等の仕様となっているようですけれども、地盤や地質の状況などで、設置の深さの違い、敷地面積などの違いで、手順の違いはあるけれども全体を 4 段階に区分して実施する工程は、同じになるのではないかという説明を受けて参りました。福島第二の 4 基分の廃炉措置期間が 44 年という説明でございましたが、柏崎刈羽では 1 基で何年かかるのかなあと見ながら見させていただいておりました。

その中で、私から質問をいくつか、3 つくらいさせていただいたのですが、ここの作業に従事する東電の社員の数 410 名、それから協力企業が 1943 名、合計 2353 名で働いていらっしゃるって、一日あたりの入場者が約 950 名ということでございました。2353 名のうち、福島県内の出身者が 2115 名ということで、全体のだいたい 9 割ということをお聞きしました。

現在の柏崎刈羽がだいたい約 8 割というふうな、私、認識でおるのですけれども、それより高い比率であることに少し驚きを感じた次第でございます。

また、地元から避難している人もいらっしゃるようで、人集めに苦勞されているということですし、現在、廃炉作業が始まったばかりで、そのノウハウが少ないということでした。今後、廃炉技術の進化、ノウハウを蓄積して、一日も早い完了を目指してほしいなというふうに第一では感じて参りました。

それから 2 日目の福一のほうですけれども、入構してすぐの印象としては、雑然として第二とは違う、とても同じ原発構内とは思えないような印象でございました。それでも、原子炉から離れている区域では平服での作業ができていますようですが、原子炉建屋周辺では防護服、防護マスク、それから二重三重の手袋などをして、完全に外気と遮断された状態で、この猛暑の中、時間も制限されているようですし、そういった作業の様子を見せていただきました。

一日目、F2 で私たちも防護服を着て、手袋をはめて少し歩いただけで汗まみれになったことを思うと、従業員の方の皆様には深く頭が下がる思いでございました。

また、先月、2 号機のデブリ取り出し作業でミスがあって延期した件を、説明会を終わった後に私、お聞きしました。1 本目のパイプと 2 本目以降のパイプの規格は若干違うということですが、ほぼ同じとのことでした。分かりやすく色を付けるとか、マー

キングして、なぜ間違えない方法を取らなかったのか、初歩的ミスにはちょっと落胆してしまいました。

しかし、作業スペースが限られた中で、猛暑の中、過酷な作業環境で、準備段階でミスを見落とさずに発見して、作業を中断できたということは、最悪な状態に至らず幸いであったなと思いますし、これに気づき、作業を中断した技術作業員の方は、私は立派だと思います。大いに褒めて然るべきではないかなというふうに思いました。

廃炉作業は未知の世界でございますし、今後もこのような局面に遭遇する危険性をはらんでいると思います。作業体制の強化と緊張感を持って、安全第一、安全最優先で処理作業を進めてほしいと感じて参りました。以上でございます。ご安全に。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。続きまして、須田委員、お願いします。

◎須田 委員

はい、委員の須田でございます。よろしくお願いいたします。

私は、足を痛めておりましたので、全工程が参加できるかどうか、非常に悩んでいたのですが、東京電力さんの皆さんやいろいろな方に手を貸していただきながら、全工程無事に参加することができて、とても良かったなと思います。

そして、1日目第二原発の見学にあたり、いつもヘルメットはもらうけど、なんで保冷材まで渡されるのかなと非常に疑問だったのですが、この暑さくらいで保冷材が必要なのかと思っていたのですが、中へ入っていろいろ着たら、これは必要だったなと感じました。そんな中で作業されている方、とても大変だなというふうに思って、大変ご苦労されているなという感じでした。

どなたもおっしゃっていますが、柏崎刈羽原子力発電所に比べて、非常に福島は敷地が狭く、柏崎はあれだけの敷地があることが当たり前、原子力発電所というのはあれくらいの敷地が必要だと思っていたけれど、コンパクトでもできるのかなというふうに感じたところでございます。

廃炉にあたって、使用済みの高レベル廃棄物の搬出先がまだ決まっていないというか、量的には足りないことから中間貯蔵所が敷地内に建設されるということですが、柏崎刈羽原子力発電所も再稼働していく際に、高レベル廃棄物は稼働すればするほど溜まっていくので、柏崎も中間貯蔵所というようなものが建設される日が来るのかなとも考えたりしました。

そして、期限は20年とお伺いしたように思うのですが、20年で協定を結んだとしても20年で大丈夫だろうかという疑問も持ちました。対応は非常に難しいだろうなというふうに感じて帰って参りました。

それから、第一原発は数年前に見学させていただきましたが、その時はタンクの間をバスが、向こうが見えないくらいの感じで、タンク、タンク、タンクの中をぐるぐると回ったような気がいたしましたけれども、水のタンクも非常に少なくなったことと、そこに自

動車や機材がさび付いたりして放置してあったのですけれど、それも割合に無くなっていて、「ああ、進んでいるな。」というのが実感でした。

第一の中で、先日、報道で放射線量の高いところでの作業の様子が放映されておりましたが、命を削っての作業としか言いようのない様子を、福島第一の廃炉は、そういうものを背負いながら工事をしてくださる方がいるのだなというふうに感じて参りました。

最後に、原子力災害伝承館に語り部コーナーがあり、立ち寄ってみました。その時の女性が、「福島はまだ事故前で自分の生活しているところが原発から何km地点にあるかが示されていない状況で、3km圏内は逃げてください。5km圏内は逃げてください。と言われても、自分が果たして何kmのところでは生活していたのかが分からなかった。」というふうなお話をされて、柏崎刈羽原子力発電所は、福島を過ぎて、5km圏内はこの町内というのがお示ししてあるようなので、自分が何km圏内に住んでいるかは周知されているなというふうに感じました。

私は途中で退席したのですけれど、その女性が被災地の自分の仕事に戻る際に、子どもを夫に託して別れる時に、自分の預金通帳と生命保険証書を託したとおっしゃって、これは非常に、すごい決断をしなければそういうことができなかったのだ。介護施設とか医療関係ですとかへ戻らなければいけない方たちは、このくらいの決断をしなければ自分の職場に戻ることができなかったのだなということに、私は第一原発も見せていただき、第二原発も見せていただきましたけれど、やはり原子力防災に対しては、この女性の一言に、私は尽きると思います。

ですから、ここが間違っていましたと公表されて、また間違ったのかではなくて、やはり間違いを正して安全を保っていただければというふうに感じております。以上です。よろしくをお願いします。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続きまして、竹内委員、お願いします。

◎竹内 委員

はい、竹内です。視察の準備して下さった皆様、説明して下さった皆様、大変貴重な体験ができました。ありがとうございました。

視察する前から、福島第二原発では廃炉まで44年を見込んでいるのに、事故でめちゃめちゃになった福島第一原発の廃炉が停止から30～40年。つまり、あと16年から26年で廃炉完了となっていることに大変違和感を持っていました。これを確かめようと思って、それをテーマにして視察に参加しました。

視察の1日目、福島第二では44年間を4段階に区分して廃炉にするという説明を受けました。福島第一原発でいえば、メルトダウンしてデブリがある場所の部位、炉心の下まで入らせてもらって、写真とか言葉で説明を受けただけではわからない実感を持つことができました。制御棒やペDESTALの構造、そしてデブリを取り出すためにロボットアームを入れる貫通孔など、位置関係も自分の目で確認できたことが本当に勉強になりました。

た。ありがとうございました。

福島第二原発で私たちは、防護服を着て袖と裾は靴下と手袋の中をしっかり入れて現場に入りました。放射線防護は、私が前に働いていた老人ホームで感染症対策をする時のガウンテクニックにととても似ているという印象を受けました。

福島第二で、堅実な廃止措置計画、廃炉に向けた計画と被ばくを最小限に抑える取組をしていることを視察し体験できたことで、2日目の福島第一原発での違和感が膨らむことになりました。

福島第二原発では、既に高レベル放射性廃棄物の使用済核燃料は全部移動されているということでした。でも、低レベル放射性廃棄物の中でも比較的線量の高い原子炉本体はすぐに廃炉にしない、すぐに処置はせずに安全貯蔵 20 年間そのままにして放射線の減衰を図るという説明を受けました。その説明を受けた後で、福島第一原発で高レベル放射性廃棄物になるであろう燃料デブリを、東京電力は一生懸命採取しようとしているのを見て、低レベル放射性廃棄物でも線量が高いものは安全貯蔵するのに、なんで福島第一原発の原子炉やデブリをいじり回すのか、すごく疑問に感じました。素人考えなのかもしれないけれども、福島第一原発の原子炉やデブリを、土台を安定させてシールドで囲むか何かして減衰を待ってから作業すべきではないのかなということを強く思いました。

それについて質問したら、燃料デブリを採取するのは、その性状を調べて対応を検討することが目的であるとおっしゃっていました。対応をこれから検討するものが、あと 27 年で廃炉、26 年で廃炉を完了できるわけがないということで、私の中では中長期ロードマップというのはデタラメだなという結論に達しました。

福島第一原発での作業は、被ばくを防ぐために移動を含めて午前、午後 2 時間ずつ、実質、正味 3 時間程度しか作業員さんは作業できないということを教えていただきました。作業員さんたちは防護服に全面マスクの完全防備をされていて、先ほどお話しも出ていましたけれど、前日同じ格好を試してみた自分はマスクをしてなかったけれども、すごく過酷な仕事だなというふうに思いました。

その現場を私たちは、滞在時間が 10 分間に制限されているブルーデッキというところから見学しました。空間線量は毎時 50 μ シーベルトという説明を受けました。私は一応長袖長ズボンという話でいただいていたので、長ズボンを履いていたのですが、ちょっと短かったみたいだったので靴下をお借りしました。そしたら、福島第一原発の方から、ズボンの裾は靴下の中に入れてなくていいですよ、入れないでください、と言われました。そして、長袖長ズボンを履いているのですが、手は出ているし顔は丸出しだし、髪の毛は風が強い日だったのですごくあおられるしという状況で 10 分間ちょっとだったと思うのですが視察をしました。

視察が終わった後に、お借りした靴下を返してくださいと言われてお返ししたのですが、回収した方がこの靴下をここから出さずに処分するとおっしゃいました。その時に私、この靴下の外側に履いていた私の靴はここから出していいのって、すごく、それが違和感

として残りました。

福島第一原発の視察後の私たちの積算被ばくは 0.1、福島第二での被ばくは0でした。福島第一を出る時に、普段の服装で見学できたと周りの人に伝えてくださいと説明してくださった方が言っていました。そこですごく合点がたって、「ああ、そのためにあんなチグハグなことをしていたのだな。」というふうに思いました。

福島第二で見た東京電力は、堅実に廃炉を進められる能力がある会社だなと思いました。第二では。でも、福島第一ではチグハグなことばかりしているなという印象を受けました。これは、中長期ロードマップなどという非現実的な無理難題を国が示して、修正しようもしないことが、福島第一の廃炉への道を歪めさせて遠のかせているのだろうと思います。今回の視察の私としての結論は、まず国が中長期ロードマップを現実に合わせてきちんと修正するところから始めなければならないということでした。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。続きまして、水戸部委員、お願いします。

◎水戸部 委員

はい、柏崎青年会議所の水戸部です。

私は、所用がありまして1日目の夕方から合流させていただいたので、Jヴィレッジからの視察参加となりました。

あまり深く考えず、そこから合流したのですけれども、Jヴィレッジ自体を東京電力さんが関わって作られたということも、恥ずかしながら知らずに参加したので、そこでいろいろ説明していただいて、東日本大震災からの復興の拠点になっていたことや、その後、サッカーの拠点として地域振興とか町の活力を生み出す場所として再整備されたというお話も聞くことができたのは、柏崎刈羽地域をどう改めて元気にしていくかという視点で考えられたのはよかったなと思っています。

2日目の福島第一原子力発電所は、私は初めて入らせていただいたので、これまではテレビで見ていた光景が、改めてあれだけ近くで見られたというのはすごく良い経験になりました。ある程度時間も経っていたこともあって、思っていたより廃炉作業が進んでいるなあという感想を得ました。放射性廃棄物の管理であったり、ALPS 処理水の処理方法であったり、とても高度な作業を大規模に運営されているところが見られました。改めて、事故が与えた影響の大きさというものを感じた次第です。

バスで第一を回っていた時に、他のバスもいらっしやって、学生さんだったと思うのですが、結構、そういう学生が視察に来ているような話を聞きまして、次の世代を担う若い子たちがこの事故のことを知ることだとか、今後のエネルギーの在り方を考える機会になっているというところもすごく良かったなあと感じています。

全体を通しては、やはり国の根幹であるエネルギーの安全保障とか安全供給というのは、国策に近いすごく大きな規模の事業、テーマだなと改めて感じました。なので、そのハンドリングがすごく難しい領域であることを改めて感じた次第です。

私自身は今回初めて入らせていただいて、いろいろ体感できたことを、今後のこの地域の会での役割に生かしていければと思いますし、私自身もより勉強して学んだことを生かしていければと考えております。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございます。続きまして、三井田副会長、お願いします。

◎三井田達毅 委員

柏崎エネルギーフォーラム三井田です。

まずもって、視察にあたってご協力いただいた関係者の皆様、それから、会長、事務局さん、当時、台風が来るといった時に、行くか行かないかというご判断等々を含めて、事前の段階からご配慮いただいたことに、まず御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

私も、1日目福島第二をメインに、2日目は第一をメインというかたちで視察させていただいたのですが、第二の説明を聞いた時に、通常廃炉だと高レベル放射性廃棄物は基本、燃料関係しかないということを聞いて、ちょっと私、変な先入観を持っていて、原子炉等々を含めて残っているものが高レベルなものが結構あるのかなと思ったら、低レベルの中の高い線量ということで、通常廃炉だと比較的そのリスクという部分がものすごく低い、処分がそこまで懸念事項として無いのだなということに安心したことと、あとは、他電力さん等を含めて情報共有をしながらやっているという、質問してそのご回答も得たので、そういった意味では順調にというか、まだ、計画段階で目に見える進捗はなかったですけども、東京電力さんだけではなく他の電力会社さんも含めて、廃炉の道筋を辿る通常原子炉に関しては、廃炉がスムーズに進んでいくのかなという感想を持ちました。

2日目の第一原発に行った時に一番印象に残ったのは、いろんな見方があると思うのですが、まず私の初めのイメージだと、とにかく近づけない、近づくことができない、作業ができないというところがいろんなかたちで、もちろん時間とか、服装、防護とかいろいろあると思うのですが、そうはいっても、やっぱり線量は低下しても通常生活まではいかないですけども、要は予想できるリスクに抑えられて工程ができるようになっているということが、まず、非常に大きく前進をしているなと思いました。ロードマップ云々に関しては、竹内委員もおっしゃっていましたが、現実的かどうかは置いて、どうしても時間がかかることだと思いますし、英知を結集してやっていかなければいけないことだと思うので、逆にこれからの部分に関しては私自身も常に関心を持ちながら、いろいろな新しい取組等々も含めてやっていくことに対して、特に地域の会だと毎月ご報告いただくわけですけども、毎月に進捗がないことに対して必要以上に焦らずというか、確実に進めていっていただくことを見守っていかなくてはならないなと思いました。

視察全体での感想の部分でいくと、特に2日目の福島第一原子力発電所に見学に入る

前に、東電さんの施設から行くわけですけれども、その時にまず映像を見させていただいた時に印象に残ったのは、その当時、未曾有の大災害が起きて、東京電力はその安全対策に対してある種、なんていったか「怠慢」だったか、「傲慢」だったかちょっと分からないですけれども、そういった意識があったというふうな部分に関して、なるほどそのとおりだなとも思いましたし、事業者だけでなく規制する側も、それが安全神話ということになったのでしょうかけれども、いろんな対策とかリスクマネジメントが形骸化したことによる、最終的にはこの痛ましい事故はリスクマネジメントの失敗だったのだなというふうには、厳しい言い方ですけれども思いました。

ただ裏を返すと、防げた事故なのではないかというふうに思うということは、きちんとやっていれば、あのクラスの大災害があっても原子力はコントローラブルなものであると、私は逆にちょっと感じた部分もありました。今、あの痛ましい状態が続いて対策をいただいていることを、よく所長もおっしゃっていますけれども、その経験を忘れずに肝に銘じて、安全に対しての取組を継続し続けることが、当時、あれぐらいのことが起きてもそういうことをやっていれば、対策して事故が起きなかったのではないかということにつながるとなると、非常に安全性という部分では信頼できるものになってしまうのかなと思いました。まさに今、当時の保安院が規制庁に代わり、事業者も姿勢を正してやり直すというかたちになっている状況を継続していただけるのであれば、逆に、私個人としては安心できる要素なのかなというふうに思いました。

また、当時あってそうだったなと思い出したのですけれども、計画停電、当時余儀なくされましたという映像もありました。一方で、その原子力の、特に水素爆発等々含めてボカンとなって分かりやすいリスクで怖い、危ないと思いがちですけれども、例えば、ようやく少し暑さが落ち着いてきたとはいえ今年のように酷暑で、計画停電で電気きませんから何時間単位でちょっと我慢してくださいといわれたら、生活というより生命を脅かすリスクであることを考えると、エネルギーインフラ、電気インフラの安定供給をし続けていただくこと自体の尊さとか有難さを、私個人、皆も本当は考えるべきではないかなと強く思いました。

いろんなエネルギーの話をしてもしようがないですけれども、そういった意味で原子力災害というリスクだけにちょっとエモーショナルに、特に 1F のような大きなことに囚われ過ぎて他のリスクを蔑ろにしないように、リスクマネジメントはリスク 1 つだけではないので、いろんなリスクをどうやって軽減して、よりベネフィットを得ていくかっていうことは、エネルギーのことだけに関しても非常に難しい問題だなと思いますし、そこは事業者だけの取組ではなくて、規制庁さん、エネ庁さんというアクセルとブレーキそれぞれが、きちんと取り組んでいただくことが非常に大事なのではないかなというふうに思いました。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。

続きまして、参加いただきましたオブザーバーの皆さん、大変ありがとうございました。柏崎市さんと刈羽村さんからお願いしたいです。柏崎市さん、お願いします。

◎西澤 課長代理（柏崎市防災・原子力課）

柏崎市の西澤です。

今回、オブザーバーということで参加をさせていただきました。個人的には何度か 1F を視察させていただいておりますが、今回はバスでの視察でありました。1F に向かう途中は、未だ雑草が生い茂った田畑があり、放置されたままの家があるというような状況で、13 年経った今も全く手が付けられていない場所がある状況を見ながら向かいました。

一方で、復興作業の拠点でありました J ヴィレッジは、震災を微塵も感じさせないような状況で再建をされておりました。当時、サッカー場に車両が駐車し、プレハブが建っていたことを記憶しております。玄関前には線量計があり、全国から作業される方が次々と出入りし、多くの方が復旧作業に携わっていたということも記憶しております。その当時とは全く別な状況で、復興が着実に進んでいるということを感じました。

また、1F の敷地内のバスで通過する場所はかなり低線量で、基本的にサイト内のクリーン化が進んでいることを実感いたしました。そのため、廃炉作業をしている方々の作業環境は線量が低く、通常の作業服でも作業が行える場所が大半であり、被ばくからの防護に対する装備や心身への負担が減って、より効率的な作業が進められるというふう感じておりました。

一方で、プラント近辺は未だ高線量でしたので、防護服等の重装備が必要で作業をされておりました。

改めて、この廃炉作業は放射性廃棄物の受け入れなど、大きな問題を解決していかなければならず、必ず解決しなければならない課題であるというふうに再認識致しました。

放射性廃棄物の受け入れや処理、放射線に対するしっかりとした理解を進めることは、今後、国としてしっかり取り組まなければならない課題であり、当市においても、このような教訓をしっかり生かして、震災経験のない職員も多くおりますので、伝えていかなければならないと感じました。

最後に、今回の視察を通じて感じたことは、危機管理という点で災害に対してしっかりと準備をし、手立てを想定しておかなければならないと感じました。それと同時に、風評被害と言われるような感情ではなく、科学的な根拠が基になった行動ができる人材を育てることと知識の啓発が重要であると感じました。そのため、原子力防災教育を進めて、日本の原子力の技術をさらに発展させ、廃炉の技術だけではなく二度とこのような事故が起きない、安全な原子力技術を次世代につなぐことや、国や市の置かれている現状を正しく理解でき、伝えられる人材を育てていきたいと個人的には感じました。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。続いて、刈羽村さん、お願いします。

◎三宮 主任（刈羽村・総務課）

刈羽村総務課、三宮です。この度は、視察研修に参加をさせていただきありがとうございました。

いろいろと調整等をしてくださった事務局の皆様とご丁寧な説明とかエスコートをしていただいた東京電力さん、そして、何よりもこういった視察研修は、まずどこに行くかを決めるところから始まると思うのですけれども、そういったことですか、今回、台風の影響等もあったので、実際に視察をするのかしないのかを決めるなど、いろいろなことを委員の皆様が決めてくださってこそ、こういった視察が成り立っているわけで、委員の皆様にも感謝を申し上げたいと思っております。

私自身は、福島第一は2回目、第二は初めて視察をさせていただきました。1日目が福島第二とJヴィレッジも視察をさせていただいて、初めての視察ではあったのですが、説明をしていただく会場には、その当時の大変な写真が貼ってあったりしたのですが、実際に構内に入って見た時にそういったことがその場を見ても全く想像ができないくらい、今は本当に普通の何もなかったかのような状態を見させていただいて、この状態になるまでに皆さん本当にたくさんの方が努力されて、今のこの状態があるのだなということが一番印象に残りました。第一発電所のほうは、確かにそこから比べるとやっぱりまだその事故があった雰囲気というのは残っていますけれども、それでも作業が確実に進んでいる。ここでもまた、皆さんの努力で進んでいるということを感じました。それが一番大きく感じたところでした。

次に印象に残ったこととしては、福島第一発電所、第二発電所のどちらも廃炉に向けて今、作業を進めているところだと思いますけれども、燃料の管理は続けられていくわけで、そのための安全対策はしっかりと行った中で管理されているのだなということがすごく印象に残りました。その燃料を管理するための建物の建設ですとかキャスクの製造を発電所の近辺で行なうことで、今後も地元と共に歩いていくということも印象に残ったことです。

今回、見学をさせていただく中で、第二のほうは日曜日の視察だったので特に誰ともすれ違うこともなかったのですけれども、第一発電所の時は、本当に見学されている方をたくさん見まして、事業者さんがしっかりと、こういったことがあったということを伝える責任を果たされているのだなというのが印象に残りました。

私たちも、エネルギーのことですとか防災のことですとか、いろいろ伝えるべきことがありますので、これからもしっかりと情報提供をしていきたいなと思いました。以上です。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。それでは最後に東京電力さん、お願いします。

◎杉山 副所長（東京電力ホールディングス（株）・柏崎刈羽原子力発電所）

はい、東京電力の杉山です。今回は休日、またお忙しい中、当社の福島第一、第二、それからJヴィレッジをご覧いただきまして誠にありがとうございました。

事故を起こした当事者でございますので、感想を言える立場ではございませんが、私も

2日間ご一緒させていただいた中で感じたことを述べさせていただきますが、福島第二では、40年にわたる廃炉のステップのご説明を聞いていただきまして、今が最初の10年の最初のステップであるということをご説明させていただいたところがございます。また、本当にタイベックを着ていただいて、本当に暑くて皆さん汗だくでシャツの色も変わるくらい汗をかかせてしまって申し訳なかったのですが、格納容器内のドライウェル、それから压力容器の下のペデスタル、そういったところをご覧いただきまして、感想は皆様さままだと思いますが、ご覧いただき感謝を申し上げます。

また、廃炉に向かっている中で、一部キャスクを製造する工場をこれから作る候補地もご覧いただき、無くしているところと作っていくところ、両方が同じ敷地内にあるということも知っていただいて、良かったかなというふうに思っています。

また、福島第一ではマスクなしのエリアが増えて、進捗が見えているというご感想もいただいた中で、私の中ではそういったところの半面、全く手つかずの事務本館、ぼろぼろの事務本館も目に入ってくるなかで、電源があつて冷温停止まで持っていった福島第二と持っていけなかった福島第一の違いを、まざまざと感じるところでございます。柏崎刈羽においては、やはり今やっております多重性、多様性のある安全対策をしっかりやって、冷温停止まで持っていけるような発電所にしていきたいというふうに強く感じたところがございます。

それにしましても、2日間本当にハードなスケジュールでご視察いただきまして、感想はもちろんさままだと思いますが、実際に実物を見ていただくということが、我々にとっては有難いことでございます。

やはり、今後も何かあれば立ち止まって、ロードマップに縛られずに安全を最優先で廃炉作業を進めていかなければいけないと心に誓ったところがございます。

ご覧いただきましたJヴィレッジ、また、2日目に食事をしていただいた大熊食堂の周りの大河原地区のように復興が進んでいるところもございまして、そういった機運に水を差さないようしっかりと廃炉作業を進めて参りたい。皆様のご意見を福島第一、第二にも伝えたいと思いますし、これをしっかり柏崎刈羽で反省を生かしていくというふうに感じたところございました。

皆様、2日間ご苦労様でした。ありがとうございました。

◎三宮 議長

はい、ありがとうございました。

現地で質問の時間もそうなかったので、ここでまだ他に視察内容につきましてご質問等ある方いらっしゃれば、もうちょっと時間あるので。はい、須田委員、どうぞ。

◎須田 委員

廃炉のことについては第一、第二と見させていただいたのですが、山のほうを見ると送電線もあったのですが、私の住んでいる土地にも送電線が通っているので、年数が来れば建て替えなければならないということで、来年が建て替えの時期だということでご

挨拶に来られた方もあるのですけれど、送電線は廃炉にして今度はどこかをつなぐのかわかりませんが、あの送電線はどうなるのですか。

◎三宮 議長

はい、東電さん、分かればお願いします。

◎今井 本社リスクコミュニケーター（東京電力ホールディングス（株））

はい。東京電力、今井でございます。当然、発電していた時は送電線として使っておりましたけれども、現在は東京電力の首都圏の電源をその送電線を使って福島第一に送っております。送電線の取替え等の維持管理につきましては、当社のパワーグリッドですとか、そういうところで専門的に管理していますので、必要に応じて点検等リプレースするかと思います。

◎三宮 議長

はい、どうぞ。

◎須田 委員

逆に電気を受けているのがあの送電線なわけですね。分かりました、ありがとうございます。発電所が無くなっても経過年数が来ればどうするのかなという疑問を受けたので、質問させていただきました。ありがとうございました。

◎三宮 議長

はい、他にある方いらっしゃいますか。よろしいですか。

それでは、時間もあと 5 分くらいなので、最後に私から感想を述べさせていただきます。

まずもって、今回 19 名中 10 名の委員の方々からご参加いただきまして、誠にありがとうございました。お仕事の都合等もあって参加できなかった方もいらっしゃると思いますが、来年、再来年以降、また視察等がある時には運営委員会でもんでいただいて、日程、行き先等、調整していただければいいのかなというふうに思っております。

私自身、福島第一、第二、そして J ヴィレッジ、震災前に何度か視察させていただきました。そして、震災後 2 年目か 3 年目に 3 カ所とも視察をさせていただきました。あの時の J ヴィレッジの風景、そして福島第一の免震重要棟の室内、風景全て覚えています。

コロナ等ありまして、たぶん 7 年から 9 年くらい行っていませんのですけれども、それ以来振りに今回視察させていただきました。福島第一、福島第二、そして J ヴィレッジ全において、だいぶ復興は進んでいるのだと。まあ完全ではありませんけどね。それは見て感じましたし、J ヴィレッジから 1F に行く間の国道の両サイドの風景というのは、復興が進む、そして手が付けられない、そういった風景も実際に自分の目で見て、感じる場所がすごくありました。伝承館もそうですし、食事をとらせていただいた大熊食堂でしたか、そうやってやっぱり風化させてはいけないという面からも、ああいった建物ができて、少しずつ復興に向けて進んでいくというのは本当に肌で感じたところでございます。

福島第二で、久しぶりに炉心の下まで入れさせていただきました。私、あの炉心の下に

入ったのは中越沖地震の後、まだ線量計がピーピーピーピー鳴りながらでしたけれども、柏崎刈羽で視察をさせていただいた時のことをすごく思い出しました。あの時、地震の後で止まっていたのですけれども、まだ、線量計も本当にある程度の数値を示す中で、あの炉心の下に入って見たことをすごく覚えています。そして今回、福島第二ですけれども、だいぶ落ち着いた中で線量計も鳴ることなく、見させていただきました。

今回、地域の会として福島事故の後の視察をさせていただきましたが、安全対策工事がこれだけ進んでいるということを実際に見ると、全然違う、これだけ進んでいて安全だなということを感じたところであります。

地域の会でも、毎月の定例会の前回定例会以降の動きの中で、東京電力さんから福島の件に関しましてもご報告頂いているところでございます。今回の視察もそれを受けて、実際どうなっているのか確認をするというのが主旨でした。

今日も、前回定例会以降の動きの後の質問で、やはり福島に関して何点かあったと思うのですが、こうやって書面で説明を受けるよりも実際に見て、自分の目で見て「ああ、こうなっているのだな。」というのをすり合わせることによって、意識も変わってくると思いますし、皆さんの知識レベルというものもすごく上がってくると思いますので、先ほども話しましたが、来年はないのかな。再来年にたぶん視察はなってしまうと思うのですが、そこで皆さんから都合を付けて視察にご参加いただいて、皆様の知識レベルをまたアップさせていただければいいのかなというふうに思っております。

長くなりました。本当に、東京電力さんをはじめ今回視察に関わっていただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

時間になりましたので、以上で本日の議題を終了させていただきたいと思います。事務局お願いします。

◎事務局

委員の皆様には2点お願いします。1点目は県外視察の所感の提出についてです。県外視察に参加された10名の委員の皆様には、9月20日金曜日までに所感の提出をお願いします。様式は昨日メールでお送りしましたのでご確認ください。

尚、提出いただいた所感情報は情報共有及び情報発信のため、10月定例会の資料として配布させていただきますのでご承知おきください。

2点目は、情報共有会議に向けた所感、質問、意見の事前提出についてです。こちらの締め切りは9月28日土曜日必着となっております。様式は既にお送りしておりますので、よろしく申し上げます。

次回定例会についてご案内します。第256回定例会は、令和6、2024年10月2日水曜日、午後6時30分から、ここ、柏崎原子力広報センターで開催します。

この後の取材は1階のエントランスホールで8時50分までといたします。

以上を持ちまして、地域の会第255回定例会を終了します。

ありがとうございました。

— 終了 —